

2.平成23年度事業概要

学校法人山野学苑は、わが国の美容界の先駆者として発展を念願しつつ、「髪・顔・装い・精神美・健康美」の五原則を「美道」として、教育を実践してきました。この建学の精神に基づき、総合的な「美」を創造し追求することが本学の教育理念であります。

以下において、各学校毎の平成23年度における事業活動について報告します。

(短期大学)

山野美容芸術短期大学は、山野愛子・初代学長の「美容教育を高等教育に」という願いから、平成4年4月に美容芸術学科の単科短期大学として設立し、その後、平成8年に美容保健学科を、平成11年に美容福祉学科を設置しました。山野愛子が求めた「美道」の精神に基づき、「美しく健やかな心身を創造することができる美容の理論と技術を持って、すべての人々の豊かで幸せな生活の維持・向上に貢献できる人材を育成する」という教育理念を推進してきました。

平成23年度より美容総合学科(美容デザイン専攻、総合エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻)を開設しました。

ホスピタリティ能力及びコミュニケーション力等の社会人基礎力の育成を柱とし、新専攻の学生全員を対象に、新たに開講した「基礎ゼミ」では、少人数制のキャリア教育をスタートさせました。美容系教員を含め、多くの教員がキャリア教育に係わり、勉強を重ねながら、学生の自己分析や履歴書の書き方、面接対策など、就職活動に必要な具体的な内容を中心に授業を進めています。キャリア支援センターも、サービスをより充実させ、ゼミ担当教員と連携して学生をサポートしています。また、インターンシップを実施する体制も充実し、優秀な学生をより良い企業に送ることが出来てきました。

このように、学校全体でキャリア支援に高い意識を持ち、就職率の向上のみならず学生の可能性を広げ、学生が納得できる進路選択をすることを目標に取り組んでいます。今年度卒業した学生については、キャリア改革のトライアル期間でしたので、ゼミは一部の学生を対象に行い、就活の具体的なサポートを行う就職ガイダンス等を新たに実施しました。

その成果もあり、進路先は、美容室の62.6%以外にエステ、ネイル、福祉施設、一般企業、進学、留学、など多岐にわたっています。

国際交流活動として、積極的な留学生の受け入れ、また、韓国・中国・台湾・香港等、アジア諸国、地域の大学等と協定を締結し、短期研修等を行っておりましたが、平成23年度に関しては東日本大震災の影響もあり、例年に比べ減少しました。

そして、他大学にない美容という特徴を活かした地域活動、地域貢献等の活動は、社会で高く評価されており、また、全学的にボランティアを推進していることもあり、必要に応じて経費の負担やスクールバスの運行等、学生ボランティア活動の積極的な参加を支援しています。

卒業時に授与される学長賞や特別賞の選定には、成績だけでなくボランティア活動等の課外活動も評価の対象とするなどして、ボランティア活動を奨励していますが、安全の確保などの点で課題は残されており、学生がより有意義かつ安全にボランティア活動に参加できる条件を整えていくことが必要であります。

教員による社会活動では、ボランティアの引率・指導の他に、市民講座における各種講演や、化粧法の講習会、研修などが挙げられます。研究に関しては、新学科が開設した最初の年度であることから、思うように研究時間を確保できない面もあり、今後は、外部資金を獲得し、充実した研究活動ができるよう体制の構築を目指しています。

短期大学を取り巻く環境は年々厳しく、本学においても苦戦が続いておりますが、本学の特色を広く社会に訴え、学生確保に取り組んでまいります。

(美容専門学校)

山野美容専門学校は、昭和9年に山野美容講習所として創設されました。以来76年間にわたり初代山野愛子先生が提唱した美道を基本理念として、美容界のため豊かな発想と美的感覚を備えた美容師の養成に努めてきました。近年、美に対する個人の意識が多様化し、また、社会変革に伴って美容師に対する要望も高度化してきました。特に、これからの高齢化社会においては、美容福祉の重要性を自覚し、福祉についても基本的な知識・技術を学び、人のため癒しの気持ちを施すことができる思いやりと愛の心を備えた美容師を養成することが望まれます。このよ

うな基本的な考え方を具現化した主要な取り組みは次のとおりです。

(1)教員の教育力の向上

グローバル化された美容業界で活躍できる美容師を養成するためには、教員自らの知識・技術・指導力の向上が不可欠です。そのため、適宜、教員研修を行い各自のスキルアップ、ティーチングスキルアップを目指しています。

*平成23年8月 全国理容師美容師養成施設教職員研修参加(神戸・4名)

*平成23年8月 各コース研修・国家試験課題研修(校内)

*平成23年11月 東京地区理容美容教職員研修協議会定期研修(東京)

*平成23年12月 各コース、スキルアップ研修(校内)

*他、各コース・チームごとに研修を実施

(2)カリキュラムの改善

2年間という短い時間の中で学生のビジョンを形にしていくためのカリキュラムとして、基礎的な技術を学ぶ基礎プロコース、プロの現場にも役立つ技術・意識・対応力を身につけていくテクニカルプロコース、そして国家試験の全員の合格を目指しています。

「この授業は今の自分に必要ない」、または、「自分が目指しているプロに近づけない」などの学生にストレスをかけない対策として、学生自身が興味のある課題を選択できるカリキュラムとしました。

①カリキュラムyou(専門課程)

プログラムを学生が自分で決断し、選択する。このカリキュラムの特徴を更に進化させました。これにより185通りの選択が出来るようになりました。また、学生からの授業評価により授業改善をするシステムとしました。

*基礎プロコース:4つのプログラムから2つ選択→5つのプログラムから3つ選択できるようにしました。

*テクニカルプロコース:6つのプログラムから3つ選択→7つのプログラムから3つ選択できるようにしました。

②カリキュラムLIVE(高等課程)

高等課(=夜間課程)独自のカリキュラムとしました。学生はそれぞれのサロンの情熱を感じながら受講しています。

*現場で活躍しているトップスタイリストが実習授業を受け持つ。

*20以上のトップサロンが授業を担当しました。

*2年間の実習時間の35%がサロン授業としました。

*現場の雰囲気を感じられる授業を行いました。

(3)学生サービスの向上

学生生活の中で気づいた不満や理不尽な出来事、また、こうしたらもっと良くなるといったアイデアなどを聞くために、「ご意見箱」を設置し、投書を受理したら速やかに事務局長が真摯に回答する体制を整えています。

就職指導については、伝統と21万人の卒業生を世界の美容界へ送り出した実績によつて、卒業生数を大幅に上回る求人数があります。また、カリキュラムに沿った新たな企業等の開拓にも取り組んでいます。就職相談室の書棚には、地域別に分類された「求人票」、サロン紹介のパンフレットが並び、インターネット用のパソコンを備えています。

セクハラ・いじめについては、学生・教員・職員が個人として尊重され、お互いの信頼をもとに教学に専念できる環境を作り、これを維持していくことを重要と考え「セクハラの防止等に関する規定」を制定し、いかなるセクハラ・いじめも黙認されたり、見過ごされたりすることの無いように取り組むなど、学生には美容師として社会に出て活躍できる美容技術の基礎力とコミュニケーション能力やマナーを身につけ、教養を高め豊かな感性を磨いて、新しい時代のリーダーを目指して誇りと希望を胸に意義ある学生生活を送られるようにサポートしています。

(4)卒業生(校友会)とのネットワークの構築

昭和9年に創設され、76年間に及ぶ教育で21万人の卒業生が世界の美容界で活躍しています。卒業生への各種サービスの一環として、学校のホームページ上にイベント等の情報

の提供や就職先としての協力依頼等、また、卒業生相互の絆を更に強力なものにするためのネットワークの拡充に努力しています。

(5)経営基盤の強化

平成23年度は、東日本大震災等の影響による入学者数の激減により、概算において難しい状況に直面しましたが、迅速な対応で基盤的経費を確保すると共に震災特別学費支援制度を制定して、被災された方で学力優秀・品行方正の希望と素養のある生徒に対して、学費の免除を行う等、学業に専念できる環境を整えています。

(医療専門学校)

山野医療専門学校は、平成23年度も教育、医療界を取り巻く環境はきわめて厳しいものでしたが、山野学苑の建学精神を念頭に置き、社会において人間がより人間らしく幸福に生きるための心身の健康の追究を美とし、その精神を根拠とする教育を実践し、社会に貢献できる柔道整復師の育成に取り組みました。

具体的には、

1. 入学者の確保：平成23年度の入学者は、18歳人口の減少や、新設専門学校の増加、一部有名専門学校への一極集中化等の厳しい環境のなかにあっても、71名を確保するなど相応の健闘を示すことが出来ました。しかしながら定員90名には達しておらず、厳しい環境を改めて認識する結果となりましたが、前年度入学者66名に対して当年度は7.8%増加しており、次年度もこの傾向を加速させるために、引き続き教職員一人ひとりが使命を強く自覚し、深い愛情と情熱を持って本学苑の建学の精神並びに本校の教育理念を意識した質の高い教育を実践することで、多くの優秀な入学者を確保したいと考えてます。加えて入試広報改革委員会を立ち上げ、入試広報活動の活性化と本校の認知度向上に努めていく所存です。
2. 国家試験合格率：平成23年度の柔道整復師国家試験の合格率は総合で63.5%(全国平均77.4%)、新卒で84.8%(同92.7%)でした。国家試験合格率が総合、新卒のいずれも全国平均を下回る状態であり、これを抜本的に改善するために、国家試験対策強化委員会を組織して学生一人ひとりにきめ細かい丁寧な指導を行うことで、合格率の高位安定化を目指していきます。
3. 特色ある教育への取り組み：(1)本校は、山野学苑が提唱する「美道5大原則」髪・顔・装い・健康美・精神美の中の「健康美」を追求し、美容と柔整との融合を実践する「美容柔整」を通して、医学・医療技術の発展に寄与する質の高い柔道整復師の育成を目指しています。美容柔整の多くは技術的なものの教授であり、明確に学問体系化されたものではなく、今後学問としての体系構築が急がれるところです。今年度は体の歪みを治す各種手技療法、アロマセラピーによるリラクゼーション、リフレクソロジー、健康栄養学などを授業に取り入れると同時に、美容柔整の基盤確立に向けて姿勢検査を実施しました。次年度は姿勢検査に基づき姿勢矯正、足の矯正(X脚、O脚)などに取り組み、また、足の痩身と小顔などを中心に健康美(姿勢美)にかかわる基盤確立を目指していきます。
(2)時間の関係で授業に組み込めなかったテーマについて課外授業及び課外活動を積極的に企画し実施しました。内容は美容柔整に関連するもの、スポーツに係わるもの、接骨院の接客・接客に係わるもの等で、具体的なテーマは次のとおりです。
『美容柔整～小顔、O脚・X脚矯正、痩身、痩脚、姿勢など～』
『美容柔整～リンパを流して体の中から美肌になろう～』
『美容柔整～健康のためのウォーキング～』
『美容柔整～指先からキレイに：基礎からネイルを学ぼう～』
『足部及び足部バイオメカニズムの重要性～Superfeetの活用方法』
『柔道整復師の仕事について』
『経営セミナー～はじめての治療院』
『メディカルスポーツアロマセラピー』
『スポーツトレーナーについて』
『柔道整復師としての活躍フィールドの将来について～その開拓、実践、展望～』
『アーユルヴェーダー～インド5000年の医学～』
『柔道整復師の心得～業界の現状から保険請求まで～』

『Thera-Bandエクササイズセミナーin東京』

『ハンドトリートメント』

『フットサル』

『家族と一緒にレクリエーション大会～早春の奥多摩ハイキング&BBQ～』

4.機構改革の推進：(1)教員の授業評価に関して学生にアンケート調査を実施し、授業評価を行い、その結果を個々の教員にフィードバックすることにより教員の教授能力向上を目指しています。

(2)学内における教務・事務の円滑な運営を目的とし、教育効果の向上を目指した学内委員会規約に基づき、教職員一人ひとりが創意工夫しながら総務、教学、広報のそれぞれ責任をもって任務に当たりました。今後、人件費と均衡の取れた階層性を念頭に置きつつ、優秀な人材の確保を目指すとともに、質の向上を図っていきます。さらに、常勤教員の勤務状況を正に評価するために、教員の任期制度導入を前提とした教員人事考課制度を確立し、これにより、教育、研究に対するモチベーションを高め、更に自己啓発へと導くことを意図しています。

5.学生支援活動：(1)就職に関しては、在学中より各医療機関にて研修を行っており、継続して就職するケースが多い。新たな職場を希望する学生には、求人票により教職員が個別相談に応じ、適切な就職先の確保に努めています。また、今年度の就職説明会では10社が参加し、新卒業生との面談が行われました。今後、年2回(夏と冬)の就職説明会を開き、在校生、卒業生に対してアルバイト、就職及び転職の便宜を図ります。

(2)学生相談に関する体制については、担任制を設け、各クラスの課題に対する相談、学生個人の悩み等に対応しています。未成年者においては、当事者間での解決が困難な場合においては、保護者を交えた三者面談を行っています。中途退学を希望した学生に対しては、教職員が一丸となり相談・対応にあたり、学生の就学に対する意識の向上を図り、退学者を最低限に止めました。

(3)学生の経済的側面に対する支援では、公的奨学金制度のみでなく、学苑独自の奨学金制度を利用できる体制をとっており、期限内に学費の納入が困難なものに対しては、延納願等の提出により納付金の延納を認めています。

(4)同窓会事務局を本校事務課内に設置し、卒業生相互及び本校との交流を積極的に行っています。今年度は新入生歓迎会、経営セミナー等を同窓会と共同開催しました。また、各種課外授業、クリスマス会、柔道部活動、フットサル大会、ハイキング&バーベキューなどの課外活動に対して同窓会から人的、物的、経済的支援を得て、有益な活動が行われました。

(日本語学校)

山野日本語学校では、わが国の大学・専門学校等へ進学するための日本語教育及び基礎教育を行う大学進学準備教育1年コース及び大学進学準備教育1年半コースと、わが国の大学・専門学校日本語教育を行う日本語一般1年コースを設置しています。平成23年度は昨年度に引続き大学への進学率を上げることを目標とし、昨年度より進学率が上がりました。

学校種別進学状況

	大学院	大学	短期大学	専修学校
平成22年度	7人	25人	9人	54人
平成23年度	5人	35人	11人	28人

日本留学試験(日本語の試験)

日本留学試験(日本語)の合格率は前年度を下回りました。

日本留学試験合格率

	N1	N2	N3
平成22年度	65.5%	51.6%	100%
平成23年度	45.0%	53.4%	—

学生募集

学生数は、東日本大震災の影響を受け、前年度の310人から197人と対前年比63.5%と大幅に減少しました。

平成23年度進路内定状況

平成24年4月2日現在

学科	学科長	卒業生予定者		内定数	未定数	内定率	進路内定先内訳						備考
		クラス	人員				美容室/ ヘアッシュ	エステ/ ネイル	福祉施設	一般企業 (化粧品 会社を含む)	進学留学	帰国	
美容芸術	大須賀	A	35	33	2	94.3%	25			2	2	1	3
		B	19	19	0	100.0%	13			2	2		2
		C	26	22	4	84.6%	15	1		3		1	2
		D	21	20	1	95.2%	18						2
		Total	101	94	7	93.1%	71	1	0	7	4	2	9
		昨年同期実績	107	104	3	97.2%	74	0	0	4	9	8	
						69.2%		0.0%	0.0%	3.7%	8.4%	7.5%	
美容保健	五十嵐	A	18	17	1	94.4%	12			1		1	1
		B	24	23	1	95.8%	13	4		4			2
		C	21	21	0	100.0%	11	6		1			3
		D	17	17	0	100.0%	8	7		1			1
		Total	80	78	2	97.5%	44	19	0	7	0	1	7
		昨年同期実績	105	100	5	95.2%	54	15	0	7	10	9	
						51.4%	14.3%	0.0%	6.7%	9.5%	4.8%	8.6%	
美容福祉	田嶋	A	19	19	0	100.0%	5	1	6	2	4		1
		Total	19	19	0	100.0%	5	1	6	2	4	0	1
				昨年同期実績	34	34	0	100.0%	26	0	6	0	2
						76.5%	0.0%	17.6%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	
本科全体		Total	200	191	9	95.5%	120	21	6	16	8	3	17
				昨年同期実績	246	238	8	96.7%	154	15	6	11	21
						62.6%	6.1%	2.4%	4.5%	8.5%	5.7%	6.9%	
福祉専攻	松下	本年度実績	1	1	0	100.0%			1				
芸術専攻	河野	本年度実績	7	7	0	100.0%	4			1		2	

注1: 昨年同期実績は、平成22年度同期の実績です。

注2: 卒業予定者とは直近教務データ上の履修年次2年&3年の学生実数を使用しています。